

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「生きがいがあり、安心して暮らせるケアを目指すこと」を運営理念とし、これまで暮らしてきた家庭や地域での役割や得意なことを、ホーム内でも出来るよう支えていくサービスを目指しています。</p>	<p>認知症が重度化するに伴い、その人らしく生きがいのある暮らしよりも、ホームの流れで一日を暮らす方も多く、その中でも本人らしく暮らせるケアを模索していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>残された機能を生かし、自分でできる事を一緒にこなすように、すべての職員で協力し取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念を盛り込んだパンフレットをもとに家族に説明したり、運営推進会議でのPRに努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>金木町地区のボランティア団体が踊りの披露に気軽に立ち寄ってくれたり、夏祭りには近所の方も参加されるようになり、徐々に地域の中で認知されてきているが、ホームからの地域貢献は、運営推進会議の開催と平行して、今後も取組んでいきたい課題の一つです。</p>	<p>キャラバンメイトになる取組を今後は行ないたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来2年半を経過しているが、職員の異動や離職が殆どないため、利用者は職員とかなり馴染みの関係を築くことが出来ていると思われる。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験年数に応じて研修計画を立て、受講するようにさせています。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や計画作成担当者が西北五のGH協会の研修に参加して情報交換したり、金木町地区の他GHの管理者と運営上の問題を話し合ったりして、質の向上への取組をしている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員への声掛けを行い、会議での問題提起を良く聞くようにしたり、職員の交流会を開くなどの取り組みをしている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者はGH管理者・GH看護師を兼任しており、常時GHに居て勤務状況を把握し、会議ではよく意見を出し合い、向上心を持って取り組めるよう働きかけています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の最近のエピソード等を伝え、行動の理由が分からない時は、自宅での習慣や出来事を良く聞くと理由が分かり、そのことを家族と共有することにより、家族と共に本人を支える関係の一助となっていると思われる。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会の時には、本人の良い点や出来たことなどプラス面を伝え、また、本人には家族が本人を思っていることを伝え、よりよい関係作りの一助となるよう努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を訪れてみたいとの利用者には、通院の帰り寄るようにしたり、信頼を寄せている家族との面会や電話での会話を希望した時はすぐにかねえるようにしている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全体的には、利用者同士が関わりあったり、支えあえるよう言葉掛けや誘導を行なう努力をしているが、個性が強い利用者がどうしても孤立化し易く、援助方法を模索している所である。		2年半以上の関わりの中で、乱暴な言葉や行動を取る利用者に対して、恐れや不安を抱く利用者があり、孤立化しやすいため、他の利用者に本人を分かってもらえる言葉掛け、恐れを忘れさせる言葉がけなど、今後も創意工夫していきたい。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した利用者やその家族を病院で見かけた時や、デイサービスや施設(同じ法人内で)を訪問し近況を聞いたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>GH職員一人について利用者一人を担当制にし、重点的にその利用者の情報を把握(センター方式で)し、他の職員と会議時情報交換して共通認識を持って、利用者の意向の把握に努めている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>上記により、担当の職員が本人や家族、在宅時の担当ケアマネジャー等からこれまでの経過を把握するようにしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者の一日の過ごし方や状態が判る介護記録をするようにし、月1回の会議の時には、心身の状態やADL等に変化があった場合は話題にし、原因や対策を検討するようにしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の家族等に利用者の状態とケアの現状について話し、それに対する意見や助言を得るようにし、介護計画へも反映させるようにしている。</p>	<p>なかなか面会に来れない家族(一名)に対して、月1回は利用者の状態の連絡をしているが、ケアへの助言を得るまでは至っていないので、今後は電話時にでも情報を得るようにしたい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しする前に急に状態の変化があった方があり、褥瘡や筋力低下が起こる可能性があったため、看護師などと話し合い、新たな計画を作成した。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践は個別記録に記入しているが、結果や気づき、工夫などはどちらかというと、連絡帳に記載されることが多い。情報の共有化はされているが、個別記録に記入されないため、介護計画に反映されにくいと思われる。		今後も個別記録には介護計画が反映され易い記録に心掛けていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お盆の帰宅時、移乗が大変な利用者については福祉車両で送迎したり、夜何回も起きて眠らない傾向がある利用者については、連絡をもらえれば迎えに行く事を伝えている。また、自宅が無人で、除雪や雑草の苦情が寄せられた時は家族や親戚に電話連絡している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入所時必要があれば民生委員と連絡を取ったり、利用者が属していたボランティア団体の慰問を受けたり、地区の駐在所のパトロール時施設の特性を話し、理解を得たりしている。また、年1回は消防署が入った避難訓練の実施、公民館の文化祭へは企画から参加している。		
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	金木地域の他のグループホームや居宅介護支援事業所のケアマネジャー、デイサービス職員と情報交換し、デイサービスや介護タクシーを利用することなどについて支援している。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当法人の居宅介護支援事業所ケアマネジャーとともに、地域包括支援センターの相談員と情報交換している。(具体的に利用者の権利擁護事業やケアマネジメントについて協議した事例はまだありません)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望した医療機関や薬局を優先して利用するようにし、主治医の指示を守り、本人と主治医の信頼関係が築かれるよう援助している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の認知症専門相談医療機関受診で職員が家族と同行したり、職員が代理受診したりして利用者が治療を受けられるように援助している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者が在宅サービスを利用していたときのデイサービスの看護師と体調について相談したり、ケアの方法についてアドバイスを受けたりしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、担当の看護師に情報提供し、退院が近くなったら連絡して欲しい旨を伝えている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	がんの終末期にある利用者が入所していた事があり、入所する前から終末の迎え方について話し合い、入所後も状態が変わる都度本人・家族と話し合い、出来るだけ入院したくないとの本人の希望を受け入れ、主治医との連絡を密にして支援した。		施設介護の経験がない介護員が殆どのため、状態が悪化してくると、対応が分からないと不安を訴える職員が多かったが、この一例を経験したことで、職員全員で情報を共有して介護に当たることを重要だと改めて認識できた。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記の介護の経験から、出来ることと出来ないことを見極める第1歩となった。必要な医療や処置を短期の入院で受け、施設に帰ってからの観察点やケアを医療側から引継ぎ、少しでも安楽になるよう取り組んだ。この経験を生かすと共に、終末期ケアの研修等を受けて行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>乱暴な言動に対して、他の利用者を守ろうととっさにたしなめる言葉が出てしまいがちな為、落ち着いてから場所を変えて話すなどの対応をするよう、今後は努力したい。</p>
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>本人が希望する化粧品やスカーフ等を用意し身だしなみを整える手伝いをしたり、必要に応じて本人が行き慣れた美容院に連れて行くよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や山菜の皮むきなどを一緒に行ったり、食器やトレーを布巾で拭いてもらうなど出来る手伝いをしてもらっている。		職員と一緒に食事を摂っていた事もあったが、利用者の重度化で、食事介助が必要な方が複数あり、最近は出来ていない。落ち着いたらまた、一緒に食べることを考えたい。
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コココーラ、コーヒー、ソフトクリーム(外出時)など好みの飲食物を用意したり、家族に持ってきてもらったりしている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙おむつを使用している方も必ずトイレ介助して、トイレでの自排泄を促している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二人介助で入浴する利用者が2人いるため、安全管理のため入浴日を決めているが、一人ひとりの好みの温度や入るタイミングなどは希望に合わせている。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	比較的夜遅くまでテレビを見る習慣のある利用者、夕食後すぐ横になりたい利用者など一人ひとりの状態に合わせて睡眠が取れるよう支援している。また、眠れない時は無理に寝かせつけるのではなく、飲み物を勧めたり話し相手をして落ち着いてから眠りに誘っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アルツハイマー病が進行しても、店番をしていた利用者にはそろばんやノート書きをしてもらうと落ち着いたり、和裁をしていた利用者には雑巾縫い、料理が得意な方には下ごしらえの手伝いなどそれぞれ気晴らしや得意なことをしてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい場所は忘れるが、どうしても自分で2千円位は持ちたいという利用者があり、家族の同意と協力を得て、持たせている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い時の散歩や日光浴、スーパーへの買い物など、一人ひとりその日の本人の希望や体調に添って出かけられるよう支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回の遠足、秋の文化祭(利用者の作品展示)の見学、公園への散策、年2～3回のスーパーへのショッピング、家族と共に夏祭りへの参加など行っている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話で話したいが、番号を忘れた時は代わりにかけてあげて取り次いだり、手紙や葉書のやり取りの希望があれば、郵送してあげたりしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者にはいつでも気軽に訪問できる事を伝え、自室でゆっくり面会できるよう配慮している。帰りには、訪問してくれたことを利用者が喜んでいることを伝えるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象になる身体拘束について、直接的な身体拘束だけでなく、玄関に鍵をすること等も拘束に入ることなどを会議の場で確認している。また、当施設は利用者の安全の為に一時的に拘束するときは、承諾書を交わしてから実施していることを再確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出ようとする利用者が居る時もなるべく付き合っ て一緒に散歩したり、感知センサーを取りつけて、鍵を かけない工夫をしている。		なるべく鍵をかけない様になっているが、不穏な動きを する時はどうしてもかけざるを得ないことがあり、今後 とも掛ける事を少なくする取組をしていきたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	建物の造りが、全て居室から出るとすぐホールとなっ ており、利用者の把握はかなり出来る体制となっている。		居室の入口の戸に透明な窓ガラスが入っており、プ ライバシーを保つ為最近目隠しをした。
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組 みをしている	間違っ て洗剤等も飲んでしまうような利用者には、必 ず職員が付き添っている時にのみ物品を使用させ、軽 度で裁縫や料理を長年馴染んでしてきた方には針や ハサミなど見守りしながら使用させている。最後には 本数を確認している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐた めの知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事 故防止に取り組んでいる	避難訓練や会議時に事故が起こったときの対応や 連絡方法、防止することについて話し合っている。そ れぞれの利用者に想定される事故の防止についても 予め話し合うようにしている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行っている	避難訓練時事故発生時の対応等についても話し、 応急手当についても確認しているが、救急法の講習を全 員受けていないので、今後は全員受け、自主訓練も 行っていきたい。		管理者・職員のうち4人は救急法を受講したが、残り の5人は未受講のため、今年度中に受講したい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	運営推進会議では、非常時の対策など良いアドバイ スをいただいたり、救助に駆けつけてくれるボランティ アへの呼び掛けをしてもらったりしている。夏祭り等の 行事では近隣の方との交流を持ち、災害時などへの 協力を依頼している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの定めにより、各感染症に対する予防や対応を所内で行い、面会者などへも手洗いなど協力してもらっている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品や食器はそれぞれ熱湯やアルコール、ハイターで消毒を行い、食材は朝配達されたら、すぐチェックし冷蔵庫などで管理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広めで入りやすく、ポストやチャイムを設置し、玄関周辺にはボランティアがプランターに花を植えてくれ、家庭的となっている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の話し声や音は不快にならないよう配慮し、テレビや音楽の音量にも配慮している。天窓の光も強すぎないようフィルムを貼っている。トイレ・洗面所やホールには散歩で取ってきた野の花や季節感のある花を飾っている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓際にソファを置いたり、玄関付近には籐の椅子、玄関ポーチには木のベンチを置くなど、一人でくつろいだり、或いは複数で団欒するスペースを確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>玄関やトイレにも手摺を設置した方が良い箇所があり、今後設置箇所の検討を行い、転倒予防に努めたい。</p>
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>ホールが広いので、テーブルを寄せるとミニ運動会やボランティアの手踊り等の披露を行うことが出来、レクリエーションに生かしている。また、平行棒を置いて、リハビリを行ったり、悪天候で外の散歩が出来ない時も、音楽をかけながらウォーキングをして楽しんでいる。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

寝たきりにならないよう、個別的に歩行訓練を継続的に全職員で取り組んでいる。そのため、利用者は比較的下肢筋力が維持されている。